

6. 削減貢献について

削減貢献量算定のニーズ

- 従来よりも省エネ性能の高い新製品を開発できた。

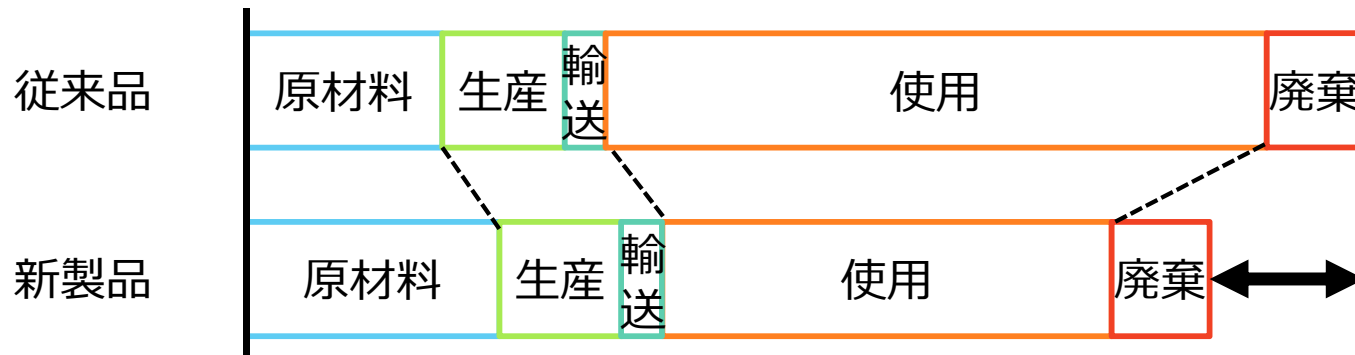


- 新製品は従来品に対して、どのくらい排出削減につながるのか評価したい！

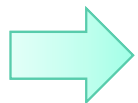


サプライチェーンの考え方を意識して、製品ライフサイクルで比較しよう！

★ライフサイクルの各段階における排出量



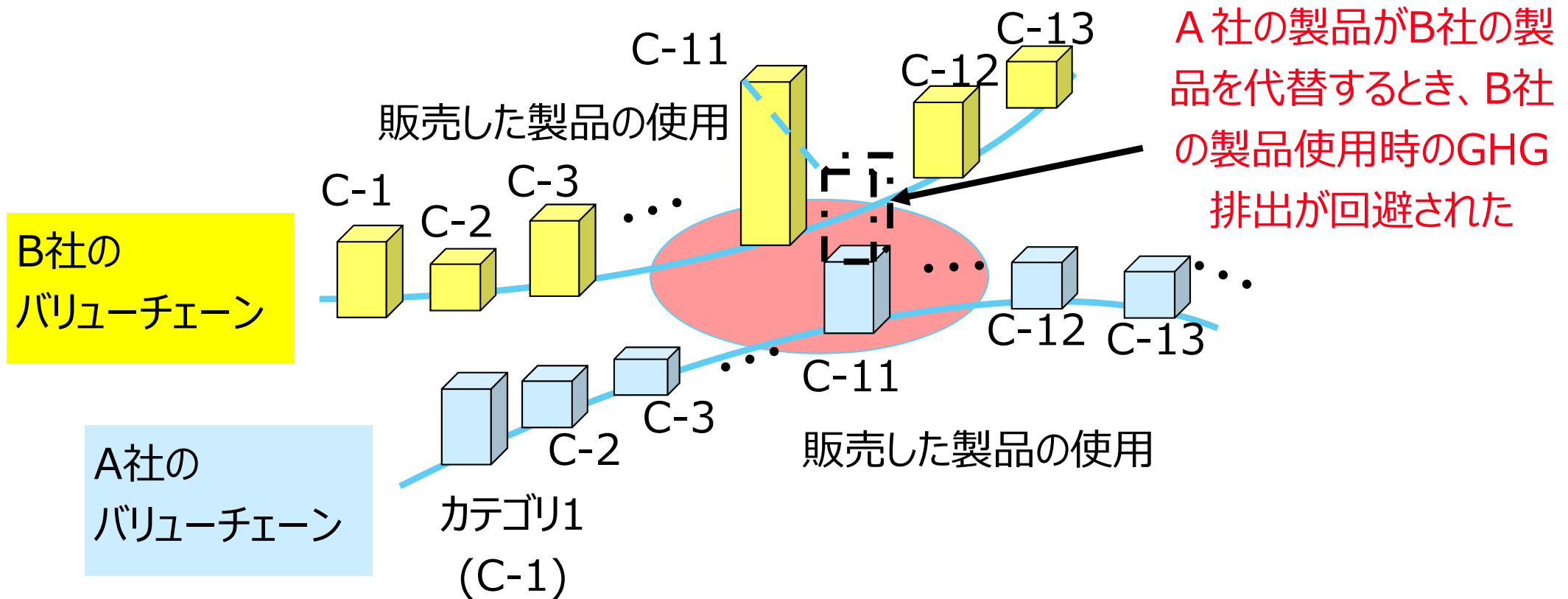
新規製品は従来品と比べて原材料生産の排出量が増加しているものの、使用時の排出量が減少したため、ライフサイクルの排出量が減少した



この考え方が**削減貢献量**につながる！

削減貢献量とは

- 削減貢献量は、従来使用されていた製品・サービスを自社製品・サービスで代替することによる、サプライチェーン上の「削減量」を定量化する考え方。
- 企業は、自社の製品・サービスによる他者の削減への貢献を 削減量としてアピールすることができる。



削減貢献量の例

- 削減貢献量は主張できる主体は、素材、部品、最終製品等のメーカーやITサービスを提供する企業など多岐に渡る。

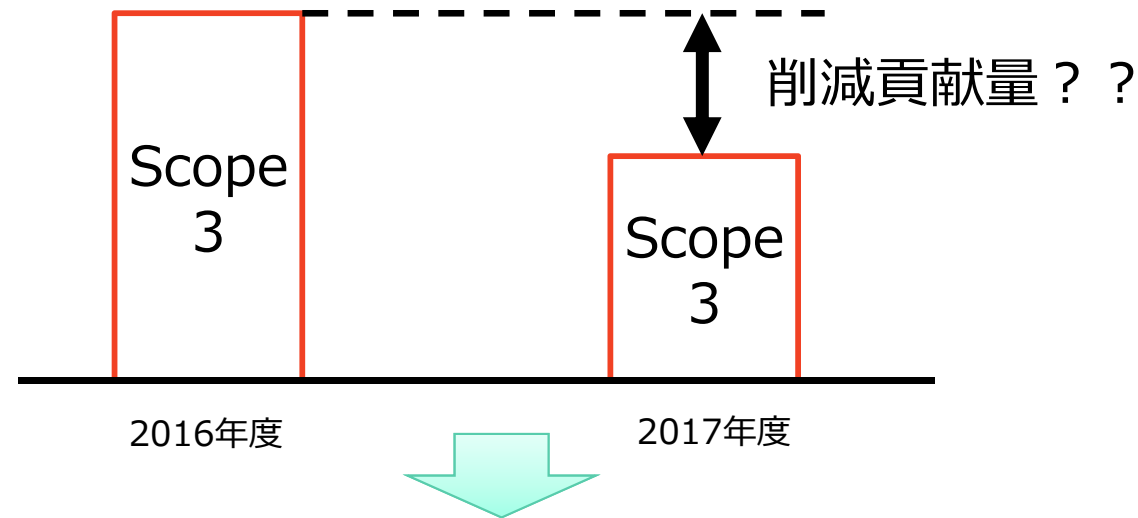
例)

- 家電メーカー：製品の省エネ性能向上 ⇒ 従来品より使用者の排出量が減少
- 素材メーカー：超軽量材料を航空機に採用 ⇒ 航空機の軽量化により燃費向上 ⇒ 航空機の運航に伴う排出量を削減
- 建材メーカー：高断熱住宅へのリフォーム ⇒ 住宅の冷暖房の使用量削減 ⇒ 電力消費量の削減分だけ排出削減
- ソフトウェア会社：テレビ会議システム ⇒ 電車などの移動に伴う排出量を回避した分だけ排出削減

...

削減貢献量はScope3でどう評価されるのか

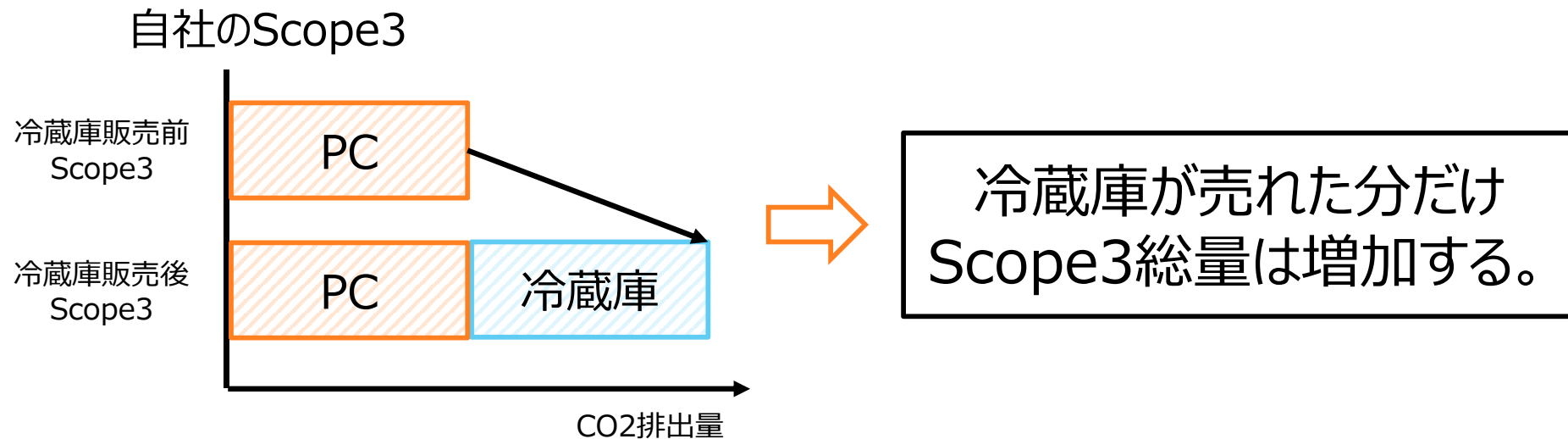
削減貢献量ってScope3の差分
なんじゃないの？



削減貢献量をScope3の単純な差分で評価することは困難！

削減貢献につながってもScope3総量は増加する例①

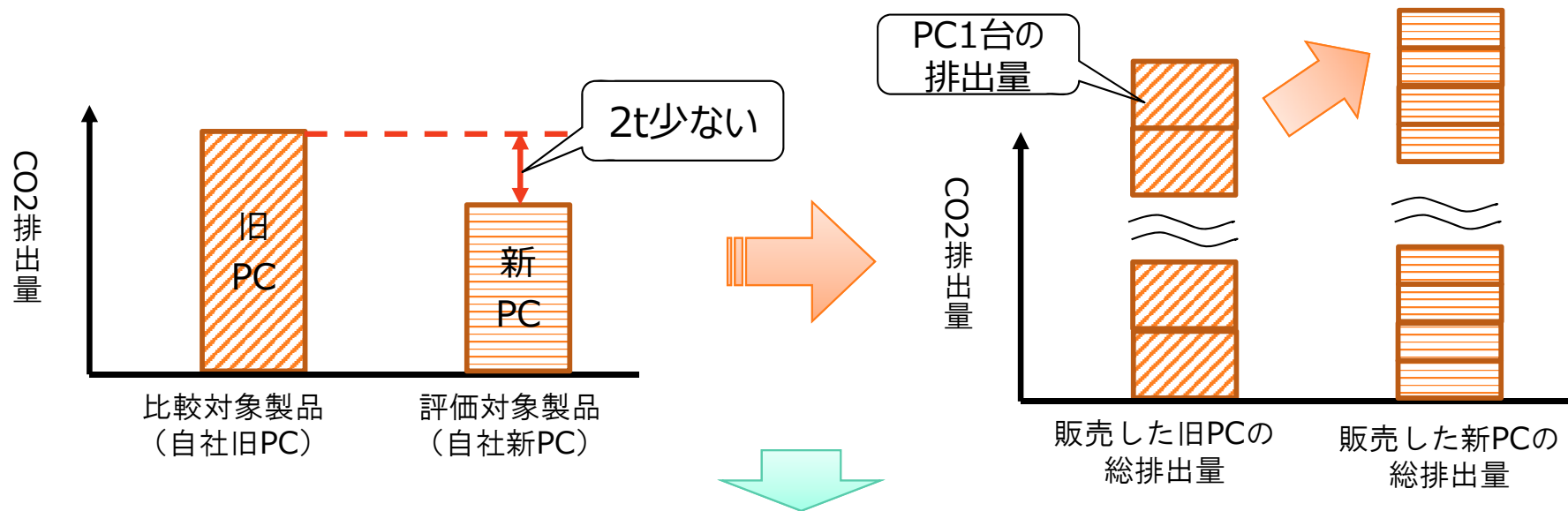
- 家電メーカーが新規に冷蔵庫の販売に挑戦。
- この冷蔵庫は業界平均と比べて年間の排出量が30tも少ない。
- 家電メーカーは元々冷蔵庫を販売しておらず、販売前の冷蔵庫の使用によるScope3はゼロ。冷蔵庫が売れた分だけScope3総量は増加する。



削減貢献量であれば1台当たり30tの削減と主張できる

削減貢献につながってもScope3総量は増加する例②

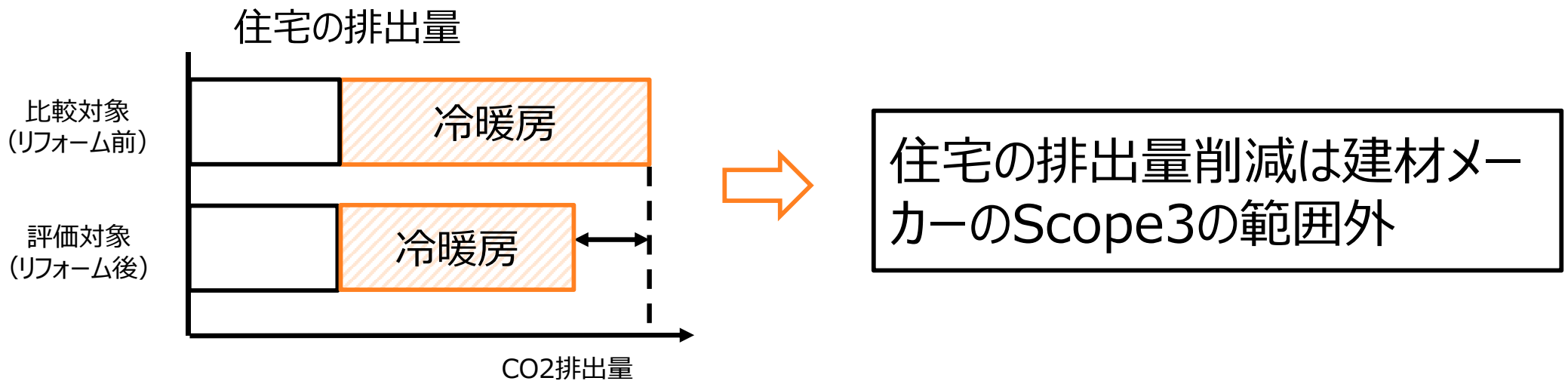
- 家電メーカーが販売する旧PCは使用時の年間排出量が10t。新規開発に成功した新PCは8tであるため、新PCの方が2t少ない。
- 新PCが2万台売れると16万tの排出。旧PCが1万台売れていたとすると排出量10万t。新PCの販売増により6万t分Scope3総量が増加。



新PCが2万台売れば、削減貢献量を4万tと主張できる

Scope3の範囲外にある削減貢献の例

- 建材メーカーが従来よりも断熱性能の高い断熱材を開発。新断熱材へのリフォームにより、住宅の冷暖房使用に伴う排出量を10%削減する。
- しかし、建材メーカーのScope3にリフォーム住宅の排出量は含まれないため、断熱材の効果をScope3の削減としての評価はできない。



削減貢献量であれば1件のリフォーム当たり10%の削減と主張できる

削減貢献量の課題

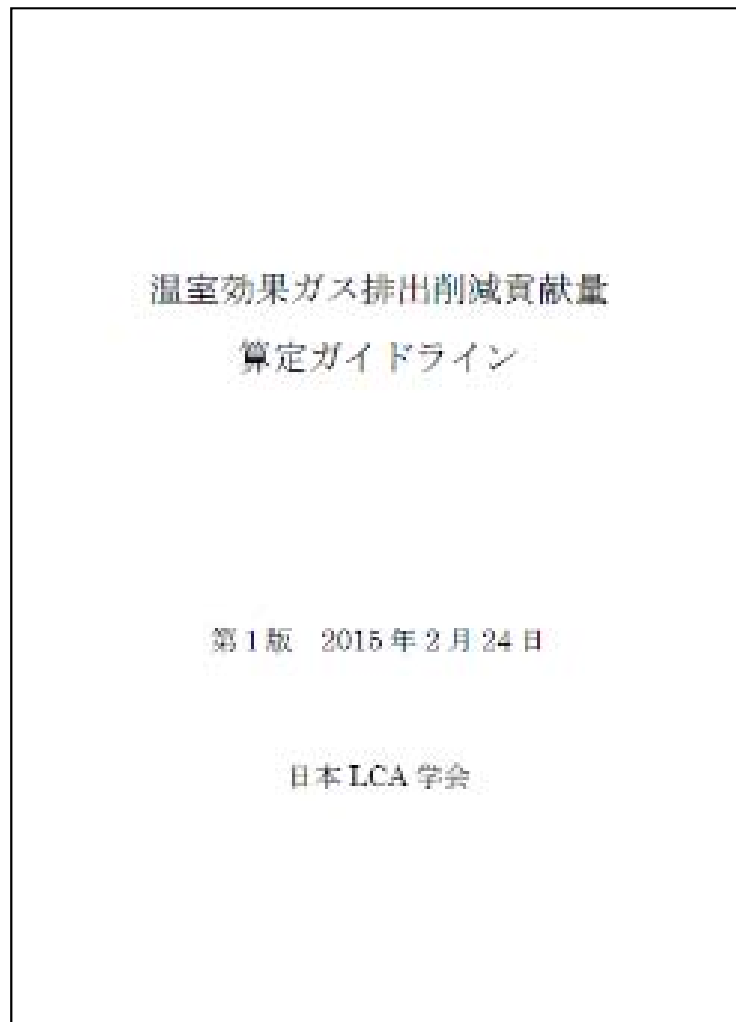
- 削減貢献量は、販売量が増加した分だけ削減量を主張できるため、低炭素製品開発の促進や、顧客への環境配慮のアピールなどにつながる。
- しかし、削減貢献量の評価は下記のような課題があり、一般化は容易ではなく、GHGプロトコルのような国際基準も存在しない。

例)

- 比較対象によって削減貢献量が大きく左右される
- 算定範囲をどこまでにするか
- 様々関係者が関わる中で削減量をどのように分配するのか

削減貢献量のガイドライン

- 国際的な基準としてのガイドラインはないものの、業界団体（化学・電機電子等）や学界（日本LCA学会）によるガイドラインの策定が行われている。



LCA学会によるガイドライン



化学業界によるガイドライン